

令和3年5月31日

行財政改革・大都市制度調査特別委員会

アセットマネジメント推進課

「浜松市公共施設等総合管理計画」の改訂について

1 経緯

資産経営を長期的かつ着実に推進するための羅針盤として平成28年3月に策定した「浜松市公共施設等総合管理計画」（計画期間：平成27年度～令和6年度）が策定後5年を経過する事から、進捗状況を踏まえ内容改訂（時点修正）を行うもの。

総務省通知「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針の改訂」（平成30年2月）により、計画の不断の見直し、充実が求められている。

2 検討した事項

- ・平成27年に設定した数値目標（充足率）は、令和6年度にインフラ資産70%の目標を掲げているが、令和元年度の実績でインフラ資産84.1%と既に計画値を大幅に上回っている。
- ・「浜松市公共施設等総合管理計画」策定後5年が経過し、一部施設の統廃合や新設、運営の変更等により記載事項と異なる内容が見られた。

3 改訂内容

(1) 「充足率」目標の見直し

別紙1

令和6年度時点の目標の見直し インフラ資産 70% ⇒ 90% 上方修正

(2) 呼称変更「ハコモノ資産」⇒「タテモノ資産」

資産の有効活用のイメージに変換していくために呼称変更

(3) その他

- ・「利用用途分類ごとの今後の方向性」について見直し、内容を反映 別紙2
- ・「目指すべき資産経営のすがた」の実現に向け「デジタルの力の最大限活用」を明記
- ・施設数、面積数等数量の更新、改元に伴う年号の更新 など

4 公表時期・方法

令和3年6月

市ホームページでの公開

アセットマネジメント推進課

1 目指すべき資産経営のすがた

持続可能な資産経営 = 保有資産にかかる将来の改修・更新経費試算値と
改修・更新の投資実績額との均衡

$$\text{充足率} = \frac{\text{改修・更新の投資実績額（1年あたり）}}{\text{将来の改修・更新経費試算値（1年あたり）}} = 100\%$$

2 保有資産に係る改修更新経費の各種試算と市投資実績 (R2.4.1 現在)

(億円)

区分	試算値 (長寿命化後・RBM 採用後)		投資実績額 (H27-R1の年平均)			比較(長寿命化後・RBM採用後)				
	50年間 A	1年あたり B(A/50)	改修・ 更新 C	新規 D	C+D=E	改修・更新実績額(C) で(B)を賅う場合		(C)に新規実績額(D) も含めた(E)で(B)を 賅う場合		
						不足額 C-B	充足率 C/B	不足額 E-B	充足率 E/B	
1 ハコモノ資産	9,019	180	136	20	156	△ 44	75.6%	△ 24	86.6%	
2 インフラ資産	13,516	270	227	87	314	△ 43	84.1%	44	116.4%	
内訳	道路・橋りょうなど	(5,715)	(114)	(138)	(50)	(188)	24	121.1%	74	164.6%
	上水道など	(7,801)	(156)	(89)	(38)	(127)	△ 67	57.2%	△ 29	81.3%
合計(1+2)	22,535	451	363	107	470	△ 88	80.5%	19	104.2%	

【参考】改修・更新に係る市投資実績 (H27-R1)

(単位：億円)

区分	H27	H28	H29	H30	R1	平均値	H22~26の年平均
ハコモノ資産	112	156	134	105	175	136	116
インフラ資産	162	232	226	237	279	227	128
合計	274	388	360	342	454	363	244

3 浜松市行政経営計画の目標指標と実績

①ハコモノ資産の充足率 80% (策定時64.1%)【長寿命化後】

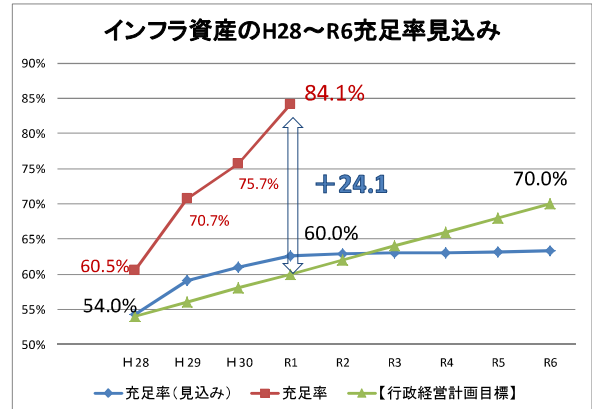
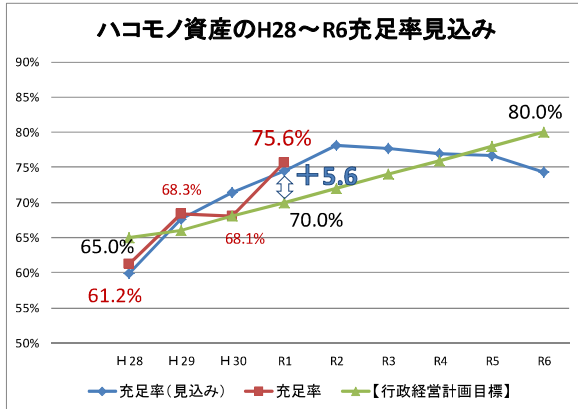
	H27	H28	H29	H30	R1	最終値 (R6)
計画値	計画策定	65%	66%	68%	70%	80%
実績値	H28.3月 策定	61.2%	68.3%	68.1%	75.6%	—

②インフラ資産の充足率 70% (策定時52.7%)【RBM採用後】

	H27	H28	H29	H30	R1	最終値 (R6)
計画値	計画策定	54%	56%	58%	60%	70%
実績値	H28.3月 策定	60.5%	70.7%	75.7%	84.1%	—

4 R6 までの充足率見込み及び目標値について

<H27 計画策定時の充足率見込と現在の充足率>

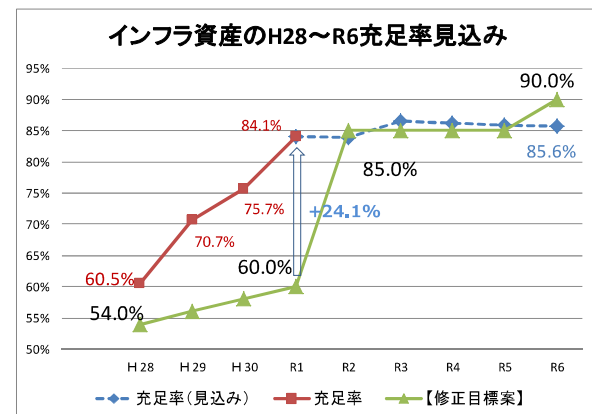
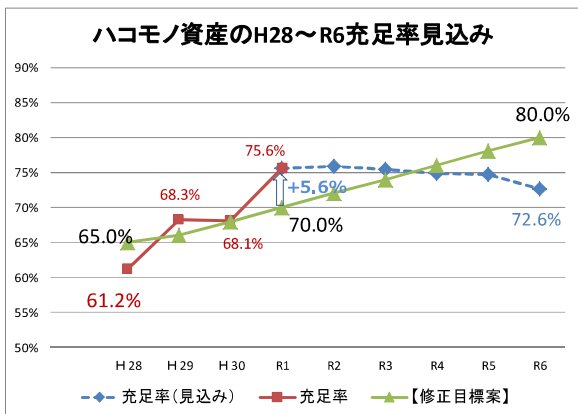


【行政経営計画目標】H27 当時

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	最終値 R6
ハコモノ資産	策定	65%	66%	68%	70%	72%	74%	76%	78%	80%
インフラ資産	策定	54%	56%	58%	60%	62%	64%	66%	68%	70%

・計画策定時の見込みより投資実績額が多いため、R1 時点の充足率の年度目標を大幅に上回る。(ハコモノ資産+5.6%、インフラ資産+24.1%)

<R2.4 時点の資産状況による充足率見込と現在の充足率>



【目標修正案】

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	最終値 R6
ハコモノ資産	策定	65%	66%	68%	70%	72%	74%	76%	78%	80%
インフラ資産	策定	54%	56%	58%	60%	85%	85%	85%	85%	90%

・充足率(見込み)はH27～R1までの投資実績額の平均値が(ハコモノ資産136億円/年、インフラ資産227億円/年)が続くものとして試算。

(変更案) R6 時点 ハコモノ資産 80%(目標値維持) インフラ資産 90% (20%上方修正)

浜松市公共施設等総合管理計画 「利用用途別分類ごとの今後の方向性」見直し まとめ

タテモノ資産			新（令和3年度）			旧（平成27年度）		
利用用途	関係課	対象	施設数	延床面積 (㎡)	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）	施設数	延床面積 (㎡)	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）
① 庁舎等	企画調整部・財務部・市民部・健康福祉部・環境部・産業部・土木部・区役所	本庁舎、区役所、第1種協働センター、土木整備事務所など	32	108,037	433億円	31	120,847	492億円
② 職員住宅等	健康福祉部・学校教育部・区役所	教職員住宅、医師住宅など	16	5,467	21億円	17	5,668	17億円
③ 集会施設	市民部・健康福祉部・産業部・都市整備部・区役所	ホール、第2種協働センター、集会所など	99	221,002	838億円	102	223,086	758億円
④ 文化・観光施設	市民部・産業部・都市整備部	美術館、博物館、資料館、文化財、動物園、国民宿舎など	52	74,581	262億円	55	75,375	231億円
⑤ スポーツ施設	市民部・産業部・都市整備部	グラウンド(器具庫)、水泳場、体育館、武道館など	45	138,832	400億円	47	141,465	364億円
⑥ 図書館	市民部	図書館	18	33,834	121億円	17	32,761	109億円
⑦ 児童福祉施設	こども家庭部・学校教育部	放課後児童会、子育て支援施設など	74	17,970	55億円	67	16,323	48億円
⑧ 保育園・幼稚園	こども家庭部	保育園、幼稚園	80	66,734	238億円	85	68,759	261億円
⑨ 保健施設	健康福祉部	保健センターなど	9	14,415	59億円	11	14,032	57億円
⑩ 高齢者福祉施設	健康福祉部	ふれあい交流センター、介護予防施設など	19	23,539	92億円	22	28,530	107億円
⑪ その他福祉施設	健康福祉部・こども家庭部・産業部	障がい者(児)福祉施設など	8	15,622	56億円	10	17,654	67億円
⑫ 産業振興施設	市民部・環境部・産業部	イベントホール、卸売市場など	7	142,260	461億円	7	140,090	515億円
⑬ 住宅施設	都市整備部	公営住宅など	86	383,243	1,302億円	95	396,146	1,250億円
⑭ 消防施設	消防局	消防局、消防署、分団詰所など	143	44,333	183億円	149	44,044	183億円
⑮ 小中学校・高等学校	学校教育部	小中学校、高等学校	142	926,863	3,497億円	146	921,745	3,676億円
⑯ その他教育施設	危機管理監・企画調整部・健康福祉部・こども家庭部・都市整備部・学校教育部	給食センター、看護専門学校、宿泊研修施設など	14	28,880	103億円	13	27,112	77億円
⑰ 公園施設	市民部・こども家庭部・環境部・産業部・都市整備部	都市公園、農村公園など	141	7,630	45億円	137	8,160	42億円
⑱ 書庫・倉庫	危機管理監・財務部・市民部・健康福祉部・産業部・土木部・学校教育部・区役所	防災倉庫、選挙資材用倉庫など	51	17,933	77億円	52	18,135	82億円
⑲ 駐車場・駐輪場	産業部・都市整備部・土木部・区役所	公共駐車場、駐輪場など	32	66,592	177億円	25	65,421	98億円
⑳ 清掃施設	環境部	清掃工場、最終処分場、衛生工場など	12	79,617	263億円	16	87,573	235億円
㉑ 火葬場・斎場	市民部	火葬場、斎場	7	7,500	26億円	7	7,405	24億円
㉒ 病院	健康福祉部	病院、診療所	12	71,980	260億円	13	76,332	305億円
㉓ その他施設		地下水水位観測舎、大気測定局舎、公衆トイレなど	120	8,002	50億円	122	8,099	30億円
タテモノ資産の合計			1,219	2,504,866	9,019億円	1,246	2,544,762	9,028億円

インフラ資産				新（令和3年度）			旧（平成27年度）		
利用用途	関係課	対 象		数量		今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（RBM採用後）	数量	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費	
①道路【車道舗装】	産業部・土木部	補助国道、県道、市道		8,489km	4,002億円		8,468km	7,516億円	
		農道・林道		559km	195億円		532km	333億円	
利用用途	関係課	対 象		数量		今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（RBM採用後）	数量	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費	
② 橋りょう	産業部・土木部	補助国道、県道、市道		514.0千㎡	1,477億円		495.0千㎡	2,089億円	
		農道・林道		18.8千㎡	41億円		18.5千㎡	70億円	
利用用途	関係課	対 象		施設数	延床面積	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）	施設数	延床面積	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）
③ ポンプ・排水機場	産業部・土木部	建物		40	6,290㎡	28億円	44	11,673㎡	49億円
利用用途	関係課	対 象		数量		今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後・RBM採用後）	数量	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）	
④ 上水道	上下水道部	建物	施設数	44施設	77億円	施設数	46施設	86億円	
			延床面積	19,910㎡			14,848㎡		
		管	5,193km	4,103億円	5,093km	6,425億円			
利用用途	関係課	対 象		数量		今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後・RBM採用後）	数量	今後50年間で必要と見込まれる改修・更新経費（長寿命化後）	
⑤ 下水道・農業集落排水	上下水道部・産業部	下水道	建物	施設数	34施設	523億円	施設数	25施設	232億円
				延床面積	159,639㎡		54,571㎡		
		管	3,601km	3,012億円	3,402km	2,787億円			
			農業排水	建物	施設数	4施設	2億円	施設数	5施設
		延床面積			723㎡	1,328㎡			
		管	42km	56億円	46km	57億円			
インフラ資産の50年改修更新経費（長寿命化後・RBM採用後）の合計						13,516億円	19,647億円		

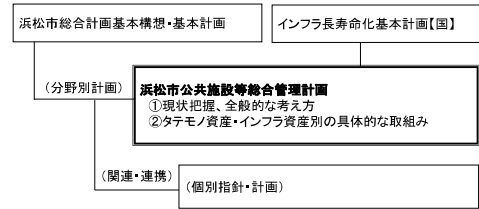
浜松市公共施設等総合管理計画 概要版

第1章 基本的事項

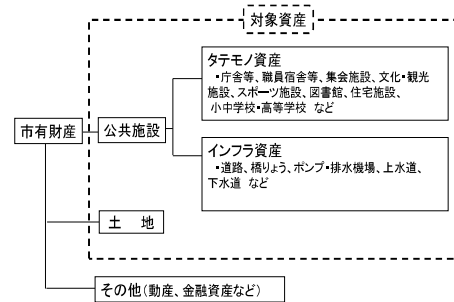
市が保有する全ての資産を対象に、資産の見直しや活用、運営管理、処分などに関するプロセス全般を資産経営と位置づけ、平成27年度以降における資産経営を長期的かつ着実に推進するための羅針盤として「浜松市公共施設等総合管理計画」を定める。

【計画の位置付け】

本計画は「インフラ長寿命化基本計画」で示された、市が策定すべき行動計画として位置付けられるもの



【対象とする資産】



【計画期間】 平成27年度から令和6年度の10年間

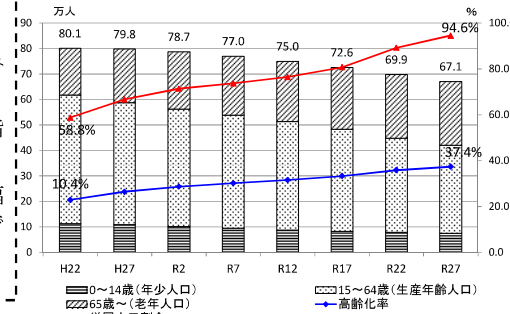
第2章 本市の概況(人口・財政・資産)

1. 人口

◆ポイント

- 政令指定都市移行後、行財政改革への取組みにより、財政指標は全般的には改善傾向
- 政令指定都市などとの比較ではストック指標、フロー指標ともに良好
- 人口減少下では市税や地方交付税などの大幅増を見込むことは現実的ではなく、歳出では、社会保障関連経費の増加が見込まれる

(参考：人口推計(市全体))

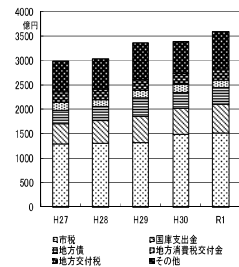


2. 財政

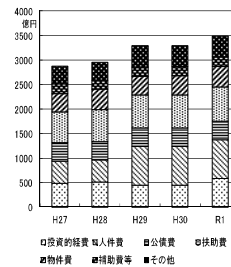
◆ポイント

- 本市人口は、平成20年をピークとして減少局面
- 令和27年には約67.1万人となることが推計
- 従属人口割合も平成22年の58.8%から令和27年の94.6%と増加し、生産年齢人口への依存度が大きく高まる
- 区域全域が中山間地域である「天竜区」とそれ以外の区では、高齢化率に差違

【歳入】



【歳出】



3. 資産

◆ポイント

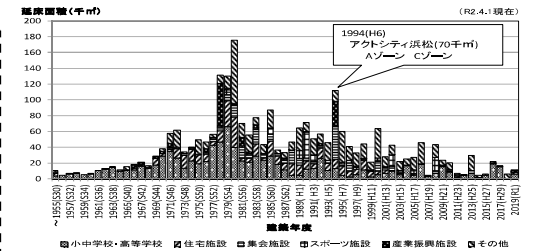
- 本市の保有する公共施設、土地などの資産は、12市町村合併、政令指定都市移行を契機に急増

【タテモノ資産】

- 都市化の進展や人口の増加に伴い1970、80年代の20年間で約137万㎡、全体の約54%を建設
- 今後、老朽化に対する対応や改修・更新時期の一極化が懸念

【インフラ資産】

- 都市化の進展や人口の増加に伴い整備が進められた橋りょう、平成に入って古い管の更新が進んだ上水道管、比較的近年整備が進んだ下水道管といった特徴
- 老朽化への対応、計画的な維持管理・改修による長寿命化、耐震化などが必要となっており、将来の財政需要の抑制、縮減が大きな課題



(主なタテモノ資産)

分類	数量	
	施設数	延床面積(万㎡)
小中学校・高等学校	142	92.7
住宅施設	86	38.3
集会施設	99	22.1
スポーツ施設	45	13.9
産業振興施設	7	14.2
その他	840	69.3
合計	1,219	250.5

(主なインフラ資産)

分類	内容	数量
道路	補助国道、県道、市道	8,489 km
	農道、林道	514 km
橋りょう	補助国道、県道、市道	514 千㎡
	農道、林道	18.8 千㎡
上水道	建設数	44 施設
	延床面積	19,910 ㎡
下水道	建設数	34 施設
	延床面積	159,639 ㎡
管		5,193 km
管		3,601 km

第3章 保有資産に係る改修・更新経費の各種試算と市投資実績

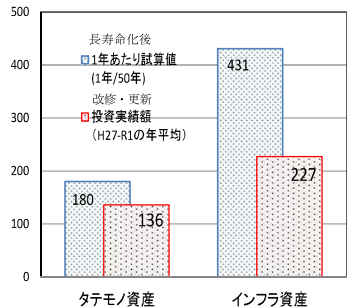
【試算値と市投資実績の比較】

総務省ホームページで公開されている更新費用推計ソフトを基本に、本市独自の仮定を加えて推計

(単位:億円)

区分	試算値 (長寿命化後)	投資実績額 (H27-R1の年平均)		比較(長寿命化後)			
		改修・更新 C	新規 D	不足額 C-B	充足率 C/B	不足額 E-B	充足率 E/B
1 タテモノ資産	9,019	180	136	28	164	△ 44	75.6%
2 インフラ資産	21,530	431	227	87	314	△ 204	52.7%
合計	30,549	611	363	115	478	△ 248	59.4%

試算値と投資実績額の比較



第4章 これまでの資産経営の取り組み

- 平成21年4月 浜松市資産経営推進方針公表
- 平成27年度までに439施設を削減(閉鎖: 229施設、管理主体変更: 153施設、譲渡: 24施設(売却を含む)、貸付33施設)

【目的】 「財産管理」から「資産経営」への意識転換
【概要】 保有する財産(土地・建物)の見直しや活用などに関するすべてを資産経営として位置づけ、全体の考え方、具体的な取組みなどを示したもの

- 【取組みの4つの柱】
- 保有財産の適正化(施設統合・借地解消など)
 - 保有財産の利活用(貸付・遊休地売却処分など)
 - 維持管理コストの最適化と環境対策(業務一括発注など)
 - 活用財産の長寿命化(修繕計画の策定・長寿命化事業など)

浜松市公共施設等総合管理計画 概要版

第5章 これからの資産経営の基本的な考え方

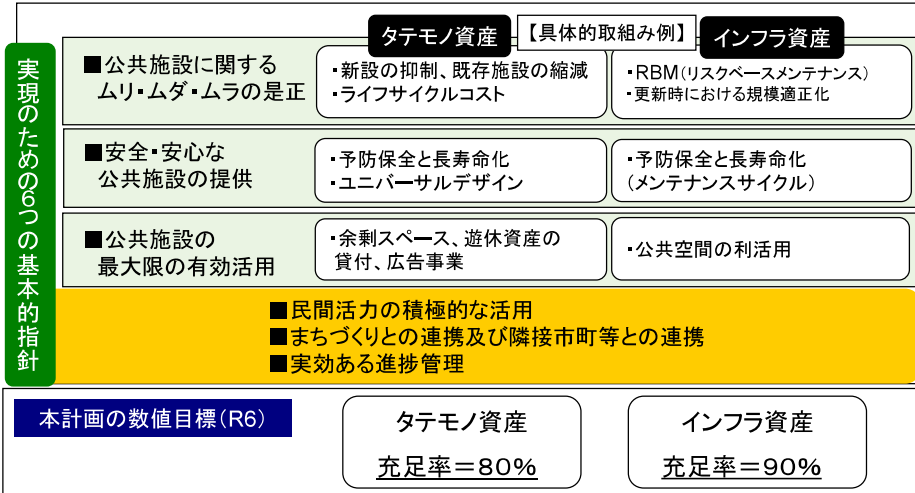
「見直すべきところは見直し、投資すべきところは積極的に投資する、そして、活用できるものは最大限活用する」ことにより「保有する資産」から「活用する資産」への意識転換を進め、デジタルの力を最大限に活かして、安全・安心で質の高い市民サービスの提供と持続可能な行財政運営を両立することが重要。

基本理念:「知る・変える・活かす」で支える都市経営

【目指すべき資産経営のすがた】

持続可能な資産経営＝保有資産にかかる将来の改修・更新経費試算値と改修・更新の投資実績額との均衡

$$\text{充足率} = \frac{\text{改修・更新の投資実績額(一年当たり)}}{\text{将来の改修・更新経費試算値(一年当たり)}} = 100\%$$



令和26年度の充足率100%に向けて、資産経営の取組みを進める

・タテモノ資産の充足率 80%

	H27	R1	R6	R16	R26
目標となるタテモノ資産の充足率	64.1%	75.6%	80%	90%	100%

極めて大きな目安として、他の条件を現状と同様とした場合、24.4%(100-75.6%)分の延床面積の縮減が必要

・インフラ資産の充足率 90%

	H27	R1	R6	R16	R26
目標となるインフラ資産の充足率	52.7%	84.1%	90%	95%	100%

極めて大きな目安として、他の条件を現状と同様とした場合、15.9%(100-84.1%)分の財源を確保するために、道路・橋りょうなどでは新規事業の進捗状況を見据えながら、改修・更新にまわすことや、また上水道事業などは、老朽化した管を更新する際には適正な規模へ縮小することなどが必要

第6章 タテモノ資産に関する具体的な取組み

【タテモノ資産の見直しの考え方と今後の方向性】

(見直しの考え方)

・タテモノ資産を通じて提供している行政サービスの性質及び行政サービスを受けている利用者の圏域など(①広域施設 ②市域施設 ③地域施設 ④生活圏域施設 ⑤コミュニティ圏域施設 ⑥中山間地域施設※ ⑦文化財施設、小規模・簡易施設など)の2つの視点で検討

※中山間地域施設

廃校などの遊休資産は、地域と調整したうえで、全国的な公募の実施や民間提案などにより、積極的な活用に努める

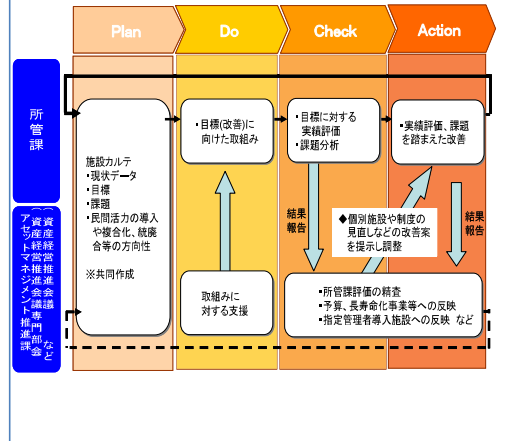
賑わいや雇用の創出⇒地域の活性化

(今後の方向性)

- ・施設の利用用途別23分類ごとに整理(例:①庁舎等②職員住宅等③集会施設④文化・観光施設⑤スポーツ施設⑥図書館など)
- ・行政サービスや活動拠点の確保と、タテモノ資産総量縮減を意識した施設の民間移管や統合、複合化などの推進

【マネジメントの手法】

すべてのタテモノ資産について、現状データ及び見直しの考え方をまとめた「施設カルテ」を作成。関係課が共有し、毎年度のPDCAサイクルを実行。



第7章 インフラ資産に関する具体的な取組み

【インフラ資産の見直しの考え方と今後の方向性】

(見直しの考え方)

・インフラ資産を通じて提供している行政サービスの性質を踏まえて検討

(①廃止 ②民間移管 ③分散処理 ④間引き ⑤RBM※)

※RBM(リスクベースメンテナンス)の導入

区分	内容	維持管理水準、耐用年数	管理目標
A	破損や事故が生じた場合、市民生活に多大な影響が生じ、当該インフラの改修・更新経費が膨大となることが想定されるもの	基準どおり	予防保全
B	破損や事故が生じた場合、市民生活への影響、当該インフラの改修・更新経費が相当となるもの	見直し・延長	予防保全
C	A・B以外のもの	見直し・延長	事後保全

(今後の方向性)

- ・資産の利用用途別5分類ごとに整理(①道路 ②橋りょう ③ポンプ・排水機場 ④上水・簡易水道 ⑤下水道・農業集落排水)

【マネジメントの手法】

RBMを踏まえた長寿命化計画などを基本に、メンテナンスサイクル(点検⇒診断⇒措置⇒記録)を実行

